

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 6 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2009～2012

課題番号：21242004

研究課題名（和文） 南アジアおよび東南アジアにおけるデーヴァラージャ信仰とその造形に関する基礎的研究

研究課題名（英文） A Study on the *Devarāja* Cult and its Arts in South Asia and Southeast Asia.

研究代表者

肥塚 隆（KOEZUKA TAKASHI）

大阪大学・その他部局等・名誉教授

研究者番号：90027988

研究成果の概要（和文）：クメール王国の刻文に頻出する *devarāja* の語は、「神のような王」を意味し、王の没後にその墓廟として寺院が造営され、神仏と一体化した王像が安置されたと考えられてきた。また東部ジャワでも、同様な信仰があったとされてきた。しかしインドではこの語は「神々の王」の意味で用いられるのが一般的で、王を神格化する信仰が盛行した形跡はない。南インドでは王像が神像と並べて寺院に安置されることは珍しくないが、むしろ王権の神聖さの明示にあったと考えられる。

研究成果の概要（英文）：The Sanskrit word *devarāja*, frequently found in the Khmer inscriptions, has been clarified to mean ‘kings as gods’. It has been considered that some Khmer temples were tombs of rulers where the images of the deified rulers were enshrined. The *devarāja* cult was also popular in the East Javanese Period. But in Indian literatures, ‘*devarāja*’ is generally understood as ‘king of gods’, and the *devarāja* cult does not seem to be popular in India. Though the images with inscriptions of the king’s names are not rare, they are surmised to denote the sacredness of their kingship.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	9,400,000	2,820,000	12,220,000
2010年度	8,500,000	2,550,000	11,050,000
2011年度	8,300,000	2,490,000	10,790,000
2012年度	7,700,000	2,310,000	10,010,000
年度			
総計	33,900,000	10,170,000	44,070,000

研究分野：人文学 A

科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史

キーワード：南アジア、東南アジア、ヒンドゥー教、仏教、美術史、建築史、デーヴァラージャ

1. 研究開始当初の背景

東南アジアには、王をインド起源の神仏と同一視するデーヴァラージャ信仰があり、ことにクメール王国とジャワに顕著に認められることが古くから指摘されてきた。例えば、アンコール王国(9世紀初頭～15世紀前半)で

は、都の中心に寺院を造営し、この寺院を王の死後にその墓廟とし、王に似せた神像あるいは仏像が奉納されたという。また10世紀前半から16世紀前半の東部ジャワでは、王の遺体を火葬した土地に寺院を造営し、王に似た身体的特徴をもつ神像を安置するのが

しばしばで、それを研究者は portrait statue と呼んできた。

一方南インドのタミル地方でも類似の現象が認められることはよく知られている。まずパッラヴァ朝初期の7世紀に造営された石窟寺院に、王の別名にちなんだ呼称がつけられるのは珍しくない。また神話浮彫中の神に王のイメージを重ねることや、神像と並べて刻まれている像が王や王妃の肖像であることが、刻文により確かめられている。またチョーラ朝(9世紀末～13世紀末)には王のパッリッパダイ(墓廟寺院)が多数造営され、11世紀になると王の存命中に寺院およびその本尊に王にちなんだ名称がつけられた。

しかし、南インド、ジャワ、クメール王国でのデーヴァラージャ信仰、王の肖像、墓廟寺院が何らかの影響関係にあるのか、美術史、建築史、考古学の観点からの総合的な検討は不十分であった。

2. 研究の目的

本研究は、同じ代表者による平成14-16年度基盤研究(A)(1)「東南アジア彫刻史における<インド化>の再検討」および平成18-20年度基盤研究(A)「環タイ湾地域におけるインド系文化の変容に関する基礎的研究」を継承発展させる意図のもとに計画された。すなわち南アジアと東南アジアにおけるヒンドゥー教および仏教の造形芸術遺品を資料として、イスラーム伝播以前の当該地域における王の神格化の実態を解明しようとするものであることを目指した。

具体的には、(1) サンスクリット語 devarāja の語義を、南インドと東南アジアとの文献や刻文の用例に即して検討する。(2) 王の「肖像」が寺院のいかなる場所に安置され、神像と同様に礼拝の対象とされたか、またモデルの肉体的な特徴を个性的に再現しているか。(3) 墓廟寺院の遺骨の奉納方法を解明するとともに、東南アジアに古くからあった祖先崇拜との関連を考察する。

3. 研究の方法

一般社会人にも公開した研究会の開催と、現地調査とを活動の中心とした。研究会は4年間で28回開催し、上智大学四谷キャンパスと九州国立博物館での各1回以外は、新大阪駅から至近距離にある大阪人間科学大学を会場とし、毎回2～3名の研究者の発表と質疑応答にあてた。補助事業者以外に17名の研究者を発表者として招待し、多角的な内容の研究会とした。

現地調査は、2009年夏にインドネシア、同冬に南インド、2010年夏にスリランカ、同冬にカンボジア、2011年夏にタイ、同冬にミャンマー、2012年夏にオランダ、フランス、イギリス、同冬にインドネシア、カンボジアで

実施し、補助事業者以外に延べ15名の若手研究者に協力者として参加していただいた。ことにタイでは同国美術局の全面的な支援を受け、ミャンマーでは元文化省歴史研究局研究員 U San Win 氏に調査に同行いただいたほか、レイデン大学 M. J. Klokke 教授ほか多くの第一線で活躍している研究者と意見交換することができた。

4. 研究成果

インドの文献や刻文資料では、devarāja の語は「神々の王」を指すのが一般的であるが、何らかの名前として、また「神(のような)王」の意味で用いられるのがごく少数ながら見出された。ただクメール王国の刻文にある devarāja はリングの形で造形化されるが、同様の例を南アジアで確認することはできなかった。南インドのパッラヴァ朝では7世紀初から8世紀にかけてヒンドゥー教寺院の呼称に王の別名を冠する例が多数認められ、それはチョーラ朝にも引き継がれた。これらの寺院に安置された王像が礼拝対象とされたことは明確ではなく、王権の神聖さや王統の権威の明示にあつたと思われる。王像の制作は北インドではクシャーン朝に限られ、南インドの諸例がそれに起源するか否かは確認できなかった。また東部ジャワには伝統的な凶像に基づかない神像がしばしば見られ、それらは portrait statue と呼ばれてきたが、その面貌は画一的であつて個人的な特徴を表現していないので真の肖像とは呼び得ないことを明らかにした。

これらの成果を含む12点の論文を掲載した研究成果報告書を、2013年3月に公刊し、関係機関や研究者に配布した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計42件)

① 榎本文雄、devarāja について、肥塚隆(編)『南アジアおよび東南アジアにおけるデーヴァラージャ信仰とその造形に関する基礎的研究』(以下では、『デーヴァラージャ信仰』と略記する)、査読無、(2013)、7-11

② 肥塚隆、パッラヴァ朝の王名を冠した寺院と王の彫像、『デーヴァラージャ信仰』、査読無、(2013)、13-27

③ 浅湫毅、アンコール期のカンボジアにおける石造彫刻の編年をめぐる、『デーヴァラージャ信仰』、査読無、(2013)、89-98

④ 上野邦一、建物・建物群の中心性・求心性について—その1、『デーヴァラージャ信仰』、査読無、(2013)、107-118

⑤ 小野邦彦、門と本殿との位置関係から見る聖・俗の世界認識、『デーヴァラージャ信仰』、

査読無、(2013)、119-123

⑥深見純生、暹の登場とシヤム湾域、『デーヴァラージャ信仰』、査読無、(2013)、125-140

⑦小野邦彦、山岳信仰から探るジャワ島のヒンドゥー教文化、『吉村作治先生古稀記念論文集永遠に生きる』、査読有、(2013)、91-104

⑧肥塚隆、造形芸術と時間—古代南アジアの説話浮彫を中心に、近藤寿人(編)『芸術と脳』、査読無、(2013)、154-175

⑨渡辺佳成、西欧の主要美術館・博物館におけるビルマ美術の展示、鐸木・渡辺・遊佐(編)『近代展示思想における表象観念と文化』、査読無、(2013)、1-32

⑩肥塚隆、書評：宮治昭『インド仏教美術史論』、南アジア研究、査読無、(2012)、142-150

⑪浅湫毅、バンコク国立博物館所蔵の如来坐像(グラヒ仏)の製作年代に関する覚書、学叢、査読無、(2012)、61-70

⑫深見純生、法頭の帰程、肥塚隆(編)『環タイ湾地域におけるインド系文化の変容に関する基礎的研究』(以下では『インド系文化の変容』と略記する)、査読無、(2012)、7-14

⑬肥塚隆、南アジアのマカラトーラナの形式変遷、『インド系文化の変容』、査読無、(2012)、27-45

⑭浅湫毅、東京国立博物館所蔵のクメール彫刻(フランス極東学院交換品)について、『インド系文化の変容』、査読無、(2012)、61-70

⑮小野邦彦、「基壇」と「基台」について、『インド系文化の変容』、査読無、(2012)、71-82

⑯橋本康子、インドと東南アジアの巻衣、『インド系文化の変容』、査読無、(2012)、89-97

⑰榎本文雄、初期仏教における涅槃、佛教研究、査読無、40号、(2012)、149-160

⑱渡辺佳成、10世紀以前ミャンマーの諸遺跡出土の宗教遺物—下ビルマ編、東西宗教交流史における表象観念と文化、査読無、(2012)、47-128

⑲小野邦彦、カンボジア、インドネシアに対する日本の遺跡修復協力、International Forum on Restoration of Stone pagoda on Mireuksa Temple site、査読無、(2011)、44-67

⑳丸井雅子、クメールの聖遺物—鋳塊(インゴット)考、上智アジア学、査読有、28巻、(2011)、89-102

(21)深見純生、マタラムの建国年次について、国際文化論集、査読無、44巻、(2011)、29-48

(22)上野邦一、ハノイ建都1000年祭とベトナム都市史研究、建築雑誌、査読無、1611号、(2010)、26-27

(23)上野邦一、古代宮殿における中心建物周辺の荘厳空間、古代学、査読有、2号、(2010)、11-16

(24)深見純生、The Indonesian Word 'Kapur' in the Chinese Texts *Shiji* (史記) and *Handhu* (漢書)、国際文化論集、査読無、43巻、(2010)、1-22

(25)丸井雅子、Cultural Heritage and Community Coexisting: Public Archaeology in Cambodia, 1999-2009、Public Archaeology、査読有、vol. 9, no. 4、(2010)、194-210

(26)小野邦彦、文化遺産保存に係る日本の国際協力—東南アジアの事例、世界の中の日本、査読無、(2010)、69-91

(27)丸井雅子、アンコール遺跡群スラ・スラン出土陶器、東南アジア考古学、査読無、29巻、(2009)、87-93

(28)丸井雅子、美術・建築史、東南アジア史研究の展開、査読有、(2009)、223-226

[学会発表] (計88件)

①丸井雅子・田畑幸嗣・大坪聖子・山形真理子・原田あゆみ、文化遺産と考古学、東南アジア学会第89回大会、2013.6.2、鹿児島大学

②深見純生、漢籍にみる「インド化」再検討—混填・蘇物・法頭・婆羅門—、第58回国際東方学会議、2013.5.24、日本教育会館

③小野邦彦、山岳信仰から探るジャワ島のヒンドゥー教文化、第58回国際東方学会議、2013.5.24、日本教育会館

④深見純生、チャンディ・キンプラン Candi Kimpulan、第1回東南アジア古代史研究会、2013.4.28、九州国立博物館

⑤肥塚隆、メコンデルタ出土の木造仏陀立像と関連の諸作例、第1回東南アジア古代史研究会、2013.4.28、九州国立博物館

⑥浅湫毅、愛知県美術館所蔵の東南アジア関連作品紹介、第66回東南アジア彫刻史研究会、2013.2.2、大阪人間科学大学

⑦肥塚隆、公開されたパパーオン寺院の状況、第66回東南アジア彫刻史研究会、2013.2.2、大阪人間科学大学

⑧深見純生、プレレット考古学博物館、第66回東南アジア彫刻史研究会、2013.2.2、大阪人間科学大学

⑨上野邦一、日本とタンロン皇城遺跡の瓦、タンロン皇城遺跡研究会、2013.1.23、タンロン皇城遺跡保存センター(ベトナム、ハノイ)

⑩榎本文雄、devarāja について、第65回東南アジア彫刻史研究会、2012.12.1、大阪人間科学大学

⑪肥塚隆、パッラヴァ朝の王の<肖像>、第65回東南アジア彫刻史研究会、2012.12.1、大阪人間科学大学

⑫深見純生、クロッケ教授の講演「南・東南アジアにおける文化の出会い」、第65回東南アジア彫刻史研究会、2012.12.1、大阪人間科学大学

⑬渡辺佳成、10世紀以前ミャンマーにおける諸民族の動向、2012年度第4回「東アジア・東南アジア大陸における文化圏の形成と他文化圏との接触」研究会、2012.10.27、東京

外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所
⑭上野邦一、建物、建物群の中心性・求心性について、第64回東南アジア彫刻史研究会、2012.10.6、大阪人間科学大学
⑮丸井雅子、クメールの聖遺物について、第64回東南アジア彫刻史研究会、2012.10.6、大阪人間科学大学
⑯日塔和彦・上北恭史・花里利一・小野邦彦・花里紗知穂、バウオマタルオ村オモ・セブアの劣化・変形調査、日本建築学会大会、2012.9.12、名古屋大学
⑰花里紗知穂・上北恭史・花里利一・日塔和彦・小野邦彦、バウオマタル村伝統木造集落の構造特性に関する調査、日本建築学会大会、2012.9.12、名古屋大学
⑱小柳津菜都美・花里利一・上北恭史・箕輪親宏・小野邦彦・中谷朱希、ジャワ島中部地震により被災した世界遺産プランバナン遺跡群その14、日本建築学会大会、2012.9.12、名古屋大学
⑲上野邦一、漢字文化圏における都城の祭祀施設について、タンロン皇城遺跡研究会、2012.8.21、タンロン皇城遺跡保存センター(ベトナム、ハノイ)
⑳丸井雅子、ミャンマー、エイヤワディー沿岸出土の軒丸瓦と滴水瓦、第63回東南アジア彫刻史研究会、2012.8.18、大阪人間科学大学
(21)深見純生、ジャワの史跡バヤット、第62回東南アジア彫刻史研究会、2012.7.14、大阪人間科学大学
(22)渡辺佳成、「驃(ピュー)国」史像の再検討、第60回東南アジア彫刻史研究会、2012.3.3、大阪人間科学大学
(23)小野邦彦、ビルマの仏教建築—その空間の意味、第60回東南アジア彫刻史研究会、2012.3.3、大阪人間科学大学
(24)丸井雅子、カンボジアにおける歴史考古学、歴史考古学会、2012.2.28、雲南大学(中国)
(25)肥塚隆、パガン壁画の従三十三天降下図について、第59回東南アジア彫刻史研究会、2012.2.4、大阪人間科学大学
(26)浅湫毅、ピュー時代およびパガン時代の彫刻編年について、第59回東南アジア彫刻史研究会、2012.2.4、大阪人間科学大学
(27)上野邦一、建物の中心性、建物群の中心性—その3、第59回東南アジア彫刻史研究会、2012.2.4、大阪人間科学大学
(28)丸井雅子、ピューの瓦に関する覚書、第59回東南アジア彫刻史研究会、2012.2.4、大阪人間科学大学
(29)丸井雅子、Archaeological Excavation in the Banteay Kdei temple、カンボジア・スタディーズ国際シンポジウム、2012.1.29、プノンペン大学(カンボジア)
(30)渡辺佳成、ピューおよび「モン」の諸遺

跡と出土品について、第58回東南アジア彫刻史研究会、2011.12.10、大阪人間科学大学
(31)小野邦彦、東北タイのクメール寺院建築調査報告、第57回東南アジア彫刻史研究会、2011.11.12、大阪人間科学大学
(32)小野邦彦、カンボジア、インドネシアに対する日本の遺跡修復協力、韓国国立文化財研究所主催「弥勒寺址石塔シンポジウム、2011.10.19、韓国国立文化財研究所(韓国、ソウル)
(33)深見純生、ローマ金貨・リンリンゴ・メノウ、第56回東南アジア彫刻史研究会、2011.10.8、大阪人間科学大学
(34)上野邦一、建物の中心性—その2、第56回東南アジア彫刻史研究会、2011.10.8、大阪人間科学大学
(35)肥塚隆、ピマイ国立博物館とパノム・ルンで考えたこと、第56回東南アジア彫刻史研究会、2011.10.8、大阪人間科学大学
(36)花里紗知穂・花里利一・上北恭史・箕輪親宏・小野邦彦・中谷朱希、ジャワ島中部地震により被災した世界遺産プランバナン遺跡群—その12、日本建築学会大会、2011.8.25、早稲田大学
(37)中谷朱希・花里利一、上北恭史・箕輪親宏・小野邦彦・花里紗知穂、ジャワ島中部地震により被災した世界遺産プランバナン遺跡群—その13、日本建築学会大会、2011.8.25、早稲田大学
(38)肥塚隆、いわゆる“portrait statue”に関する最近の研究動向、第55回東南アジア彫刻史研究会、2011.7.23、大阪人間科学大学
(39)丸井雅子、モニュメントの変容：信仰の場としてのアンコール・ワット考、宗教遺産学研究会、2011.7.2、京都府立大学
(40)深見純生、暹の再検討、第54回東南アジア彫刻史研究会、2011.6.18、大阪人間科学大学
(41)上野邦一、アンコール遺跡群のうち未解明の遺跡の考察、第52回東南アジア彫刻史研究会、2011.4.9、大阪人間科学大学
(42)深見純生、マタラム王国の建国年次、インドネシア在地位文書研究プロジェクト、2011.3.18、東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所
(43)肥塚隆、アンコール末期の仏像削除あるいは改変の諸例、第51回東南アジア彫刻史研究会、2011.3.5、大阪人間科学大学
(44)渡辺佳成、古代、中世東南アジアにおける「廢仏」と「廢ヒンドゥー?」、第51回東南アジア彫刻史研究会、2011.3.5、大阪人間科学大学
(45)浅湫毅、伝癩王像とバイヨン様式、第51回東南アジア彫刻史研究会、2011.3.5、大阪人間科学大学
(46)丸井雅子、シハヌーク博物館所蔵資料：

バンテアイ・クデイと仏像埋納坑、第 51 回東南アジア彫刻史研究会、2011. 3. 5、大阪人間科学大学

(47) 小野邦彦、Phnom Bok の伽藍構成について、第 51 回東南アジア彫刻史研究会、2011. 3. 5、大阪人間科学大学

(48) 上野邦一、建物群の中心性、建物の中心性、第 51 回東南アジア彫刻史研究会、2011. 3. 5、大阪人間科学大学

(49) 淺湫毅、アンコール期石造彫刻の編年に関する一試論、東南アジア考古学会・東南アジア学会関東例会学際ワークショップ「紀元 1000 年紀のメコン河下流域の編年と文化に関する多角的検討」、2011. 1. 29、上智大学

(50) 小野邦彦、中央主祠堂の四方に整然と小祠堂を配置する伽藍形式について、第 50 回東南アジア彫刻史研究会、2010. 11. 13、大阪人間科学大学

(51) 肥塚隆、スリランカのヒンドゥー教建築と彫刻、第 50 回東南アジア彫刻史研究会、2010. 11. 13、大阪人間科学大学

(52) 肥塚隆、南アジアにおける支配者の神格化をめぐる諸問題、第 49 回東南アジア彫刻史研究会、2010. 10. 17、上智大学

(53) 上野邦一、洪徳版図の考察、ベトナム学会、2010. 10. 8、ハノイ国際会議場(ベトナム)

(54) 深見純生、デーヴァラージャの大道具小道具、第 47 回東南アジア彫刻史研究会、2010. 7. 17、大阪人間科学大学

(55) 小野邦彦・上北恭史・花里利一、ジャワ島中部地震により被災した世界遺産プランバナナ遺跡群—その 9、日本建築学会、2010. 9. 9、富山大学五福キャンパス

(56) 山村広樹・花里利一・上北恭史・箕輪親宏・小野邦彦・大村真理子、ジャワ島中部地震により被災した世界遺産プランバナナ遺跡群—その 10、日本建築学会、2010. 9. 9、富山大学五福キャンパス

(57) 上北恭史・松井敏也・稲葉信子・花里利一・箕輪親宏・小野邦彦・神田洋子、ヨヨ スプロト、ジャワ島中部地震により被災した世界遺産プランバナナ遺跡群—その 11、日本建築学会、2010. 9. 9、富山大学五福キャンパス

(58) 上野邦一、タンロン皇城遺跡の建物の特徴、日本ベトナム研究者会議、2010. 6. 27、京都大学

(59) 渡辺佳成、パガンと南インド、スリランカ、中国四国歴史学地理学協会 2010 年度大会、2010. 6. 27、福山大学

(60) 肥塚隆、ボロブドゥールの善財童子歴参図の観音図像について、第 46 回東南アジア彫刻史研究会、2010. 5. 29、大阪人間科学大学

(61) 小野邦彦、南インドのヒンドゥー寺院とジャワ島のチャンディの建築構成の比較、第 45 回東南アジア彫刻史研究会、2010. 4. 17、大阪人間科学大学

(62) 渡辺佳成、パガンとチョーラ、第 45 回東南アジア彫刻史研究会、2010. 4. 17、大阪人間科学大学

(63) 肥塚隆、Avalokiteśvara Images at Candi Borobudur、“Cultural Crossings: China and Beyond in the Medieval Period” Conference、2010. 3. 13、ヴァージニア大学(アメリカ)

(64) 小野邦彦、Report on a Literary Survey in the Netherlands、Japan-Indonesia International Exchange and Capacity-Building Project for the Conservation of Stone-built Cultural Heritage、2010. 3. 8、Borobudur Conservation Office and Prambanan, Yogyakarta (インドネシア)

(65) 深見純生、土塔(チーナパゴダ)に関する覚え書き、第 44 回東南アジア彫刻史研究会、2010. 2. 13、大阪人間科学大学

(66) 丸井雅子、石窟寺院の前面利用について、第 44 回東南アジア彫刻史研究会、2010. 2. 13、大阪人間科学大学

(67) 小野邦彦、チョーラ朝ヒンドゥー寺院の建築構成について、第 44 回東南アジア彫刻史研究会、2010. 2. 13、大阪人間科学大学

(68) 上野邦一、中央からアプローチしない建物、第 44 回東南アジア彫刻史研究会、2010. 2. 13、大阪人間科学大学

(69) 肥塚隆、パッラヴァ時代の肖像彫刻、第 44 回東南アジア彫刻史研究会、2010. 2. 13、大阪人間科学大学

(70) 肥塚隆、造形芸術と時間、国際高等研究所プロジェクト、2009. 12. 5、大阪大学総合学術博物館

(71) 上野邦一、インドネシア遺跡調査で気づいたこと、第 43 回東南アジア彫刻史研究会、2009. 11. 28、大阪人間科学大学

(72) 上野邦一、Some Points on Buildings in Thang Long Imperial Site、ベトナム考古学会、2009. 11. 21、ハノイ国立歴史博物館(ベトナム)

(73) 淺湫毅、中部ジャワの砂岩製のリングについて、第 42 回東南アジア彫刻史研究会、2009. 10. 31、大阪人間科学大学

(74) 渡辺佳成、パガンから見たジャワの遺跡、遺物、第 41 回東南アジア彫刻史研究会、2009. 9. 26、大阪人間科学大学

(75) 深見純生、チャンディ・キダル名称考、第 41 回東南アジア彫刻史研究会、2009. 9. 26、大阪人間科学大学

(76) 肥塚隆、ジャワ建築の連珠垂飾、第 41 回東南アジア彫刻史研究会、2009. 9. 26、大阪人間科学大学

(77) 飛田ちづる・上北恭史・花里利一・稲葉信子・箕輪親宏・小野邦彦・是澤紀子・松井敏也・種市麻衣・神田洋子、ジャワ島中部地震により被災した世界遺産プランバナナ遺跡群—その 7、日本建築学会、2009. 8. 28、東

北学院大学

(78) 神田洋子・上北恭史・花里利一・稲葉信子・箕輪親宏・小野邦彦・是澤紀子・松井敏也・種市麻衣・飛田ちづる、ジャワ島中部地震により被災した世界遺産プランバナン遺跡群—その8、日本建築学会、2009. 8. 28、東北学院大学

(79) 小野邦彦、ジャワ島の仏教、ヒンドゥー教遺跡の概要、第40回東南アジア彫刻史研究会、2009. 7. 18、大阪人間科学大学

(80) 肥塚隆、ジャワのいわゆる portrait statue について、第40回東南アジア彫刻史研究会、2009. 7. 18、大阪人間科学大学

(81) 渡辺佳成・岩本小百合、ロンゴワルシト博物館の石彫について、第40回東南アジア彫刻史研究会、2009. 7. 18、大阪人間科学大学

(82) 丸井雅子、アンコール遺跡群スラ・スラン出土陶器、第200回東南アジア考古学会、2009. 6. 27、上智大学

(83) 榎本文雄、インド仏教における葬儀と墳墓に関する近年の研究動向、第39回東南アジア彫刻史研究会、2009. 6. 20、大阪人間科学大学

〔図書〕(計4件)

① 肥塚隆(編)、大阪大学大学院文学研究科、南アジアおよび東南アジアにおけるデーヴァラージャ信仰とその造形に関する基礎的研究(科学研究費補助金研究成果報告書)、(2013)、165 ページ。

② 肥塚隆(編)、大阪人間科学大学、環タイ湾地域におけるインド系文化の変容に関する基礎的研究(科学研究費補助金研究成果報告書)、(2012)、106 ページ。

③ 上野邦一、連合出版、建物の痕跡をさぐる、(2010)、238 ページ

④ 石澤良昭・丸井雅子共編、上智大学出版、グローバル/ローカル：文化遺産、(2010)、274 ページ

6. 研究組織

(1) 研究代表者

肥塚 隆 (KOEZUKA TAKASHI)

大阪大学・その他部局等・名誉教授

研究者番号：90027988

(2) 研究分担者

浅湫 毅 (ASANUMA TAKESHI)

独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部・保存修理指導室長

研究者番号：10249914

橋本 康子 (HASHIMOTO YASUKO)

大阪人間科学大学・人間科学部・教授

研究者番号：20411720

深見 純生 (FUKAMI SUMIO)

桃山学院大学・国際教養学部・教授

研究者番号：40144555

小野 邦彦 (ONO KUNIHICO)

サイバー大学・世界遺産学部・教授

研究者番号：50350426

上野 邦一 (UENO KUNIKAZU)

奈良女子大学・古代学学術研究センター・特任教授

研究者番号：70000495

榎本 文雄 (ENOMOTO FUMIO)

大阪大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：70151991

渡辺 佳成 (WATANABE YOSHINARI)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・准教授

丸井 雅子 (MARUI MASAKO)

上智大学・外国語学部・准教授